

心耕

丈牝は一羽でいるツグミが、4~5
メートルの間をおいて二羽でいる。何で?

西光寺の報

今月の予定

・十二日(月) 常例法座 午後一時

・二十五日(日) 日曜法座 午後一時

・七日(水) 午後六時 壯年会主催

・十二日(月) 午前十時半 婦人会主催

・写経会 九日 午後二時 一つおらでも始められ

・四日(日) 十二時~四時 連続研修会 (於: 袖ヶ浦法光寺)

・御晨朝 毎朝六時半より(通年)

「おあつこい」西光寺では六時半から勤めているが、
京都・御本山(西本願寺)では六時から勤められて
いる。御正を報恩講(一日九日~十六日)、寒い中であ
る。御正を報恩講には百~二百名の同行が来てお
られる。ナニゴザンナニゴザン、念仏を唱えている。

正月十二日は三島さん夫婦、十三

日は住転夫婦で御本山の報恩講にお

参りして無事帰ってきました。毎年お参

りしてこのたびは去年は無事では

ななかったのだ。道宗という蓮如上人

の弟子ゆかりの寺が越中五箇山にあ

りそこをどうしても真冬に訪ねたく

て、京都からの帰路に立ち寄ること

にしたのだ。だが高速の出口を間違

えて行くことはできず白川村を見た

だけで千葉に帰ることになった。

飛騨と信州を結び安房トンネル。

その五キロ手前の山道のカーブで下

り来た対向車入りっぱし直線になっ

て道を野原まで直回からトラック。

我が空車は全損、レッカー車で市原

まで運ばれた。住転と坊守は無傷。

相手は無傷。今日まで後遺症もない。

信心のさだまるとき

往生またさだまるなり

親鸞聖人 「末灯抄」

「末灯抄」は、晩年京都に帰られた聖人が関東に残った門弟にあてられた手紙を集めたものです。今まで四十三通見つかっています。『有念無念の事』と名付けられた手紙に収められたこの一節は

眞実信心の行人は、撰取不捨のゆゑに正定聚のに住す。このゆゑに臨終まつことなし、来迎たのむことなし。信心の定まるるとき往生また定まるなり。来迎の儀則をまたず。の一文の中にあります。意識します。

眞実に信心を得て日々の暮らしを営む人は、どのように生きてても、如来の智慧と慈悲の中に生かされていることを信じて疑わないので、今の行いがどのような結果を招くかに怯えることはない。どのような死に方をしようが、人がどのように云おうが全く気にするところではない。ナンマンダブひとつに全てお任せするだけである。昔もそうであり、今もそうであり、これからもそうである。今までは目先のことに心奪われ

て振り回されていただけのことである。

聖人七十九歳のときのお手紙だと思つと、世の混沌の中にのた打ちまわるだけの人生が、しつかりと阿弥陀仏の大悲に抱きとられた人生であつたと、大きな安堵と喜びに満ちていることがスッキリと述べられており、読んで心が震えてくるようです。

何が眞実であり、何が虚偽であり、何が嘘偽りであるか。身の周りにはごった煮のように情報があふれて、目移り心移りだけで生きるしかなく、虚脱と徒勞しか残らないように思えるだけであつた。だが、親は何を教えてください。たか、先生は何を教えてください。私の周りに生きた人々、起きた出来事、そのひとりひとり、ひとつひとつは何のために生き、何のために起きてくれたのか。「ほとけさまはなあ、ありとあらゆる手立てをばつて本當のことをおしえて下さる」。古老の言葉が届いてくる。

ナンマンダブナマンダブ。

御 (おとき) 齋——御正忌報恩講——

先日、1月11日から12日にかけて御正忌報恩講に行っていました。夫婦二人きりで旅行をいたしますのは、何十年ぶりの事でした。

うん十年前は旅行中に言い合いなどもいたしましたが、この度は世界遺産や重要文化財に囲まれた本山にお参りさせてもらい、なおかつ御齋と言う美味しいお食事まで頂き、仲良く大変ありがたいことだと思う次第であります。

さて御齋ですが、十年位前に一人で御正忌報恩講に始めて行きました時は、赤い毛氈に座った記憶があるのですが、この度はテーブルといす席となっております。この右上の絵が御齋の配膳です。折詰以外

は全て朱色の漆塗りです。箸は金文字で本願寺と書かれている朱塗りで、記念として持ち帰りが許されておりました。折詰は以前にはすべて食べたのですが、今回はホテルへ持ち帰って、夜半にお酒のお供にしました。温かめのお酒と本当によく合います。さて御齋です。

まずは玄関を上がって周囲に虎の絵が描かれた虎の間で待機し、続いて重要文化財の南能舞台の前の国宝である書院対面所に入り着座します。すると羽織袴の男性群(開明社の人々)がタッタターと足早に膳を運んできてみんなの前に置いて去っていきます。すると直ぐにお屠蘇のような酒器で杯に注いで回ります。おかわりは自由です。私の前に酒器を置いて去って行きました。ニタツと微笑んでほろ酔い加減です。その後同様に汁椀を満たし飯椀にご飯を盛ってお食事が始まります。汁とご飯のおかわりは、酒が旨いのでしませんでした。食事が終わると配膳をタッタターと片付けて、また同様に饅頭を目の前に手早く置いて行き、続いて抹茶を仕立てた茶碗を配ります。抹茶は濃茶仕立てで美味しいです。このお手前が終わると折詰と箸を袋に入れて虎の間まで退出し、蜜柑と本願寺せんべいを頂いて玄関を出ます。こうして一連の儀式が終了いたします。男性群の素早い動作の中にも一々に礼をもって行われていることに大きな感動を覚えます。本当に美味しく戴けました。なんまんだぶ

写真等の撮影は禁止となっておりますが、スマホでビデオなどをそっと撮影している人が何人かみうけられました。この度は色々なことで10年一昔の変化を感じることでした。

※下線部の註

御齋：一汁五菜を基本。午前10時から正午までに食事をする仏教の習わし。このとき食するものを「齋」といいます。本願寺では動物性の食材は一切使用していません。

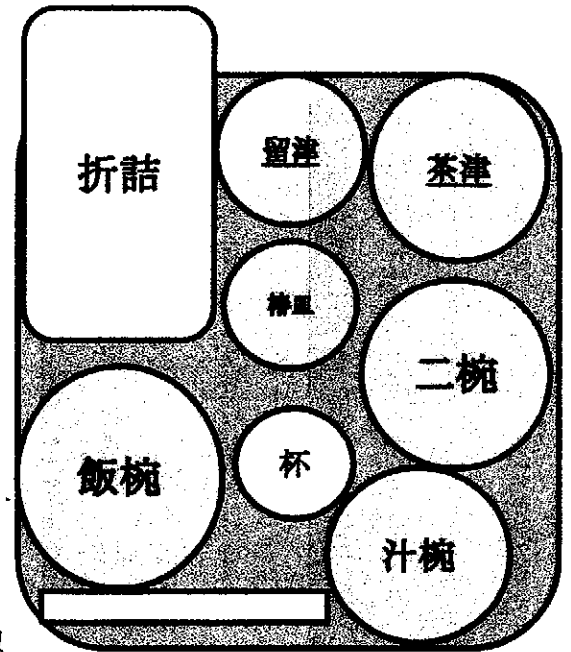
虎の間：重要文化財で待機所とも言います。虎に見えないような雄雌の虎が何匹も描かれています。

書院対面所：国宝で桃山時代を代表する書院。正面の欄間に鴻(コウノトリ)が透かし彫りとなっていることから鴻の間とも言います。梅や松や鳥などのふすま絵が周囲にあります。本願寺では一番広い部屋で162畳(下段)あります。ここで能を堪能します。

南能舞台：最も古い能舞台で重要文化財です。蓮如上人の教化の手立てとして催された伝統を受け継いだものです。宗祖降誕会の5月21~22日に催されます。対面所から鑑賞する能を一度経験したいものです。

開明社：蓮如上人の時の協力者。石山本願寺を経て第11代頭如上人より400年、ご法義を守り伝統文化を受け継いで来た御用達商の皆様で構成されたグループ。明治9年に第21代明如上人が「開明社」と名前を提案。現在35社。御正忌報恩講の御齋では男性のみで配膳。

なを配膳の中の「茶津」と「留津」については意味不明でした。お願い誰か教えてください！ なんまんだぶ



会者定離

この話は、よく「生者必滅 会者定離」とセットで用い、ゴメンナナイ教

玉虫は
香水の原料に
なるらしい！
刀サヒと言て



玉虫は
香水の原料に
なるらしい！
刀サヒと言て

られます。出会いには、必ず別れがある。世の中に、常なるものはありません。常ならざる者を当てにして、人は迷います。人、金、権力等々、すべて常ならざるものです。

でも、どうしても当てにできてしまいます。それは日常生活を歩む上でなかなか離れることが出来るものではないからです。その私たちを見捨てまいと阿弥陀如来は常住不変の仏となられました。常に照らし続ける光の仏さまです。

最近、テニスの大坂なおみさんが世界で活躍しています。どうやら、コーチを変えたことが大きな理由だそうです。テニスという競技は、メンタルトレーニングの発祥でもあります。試合中、精神を安定させる一つの方法として、「何かを目印にしないで、できれば遠くて動かないもの」と言われます。動くもの、例えば観客を目印にすると、いないときに不安を感じてしまいます。できるだけ遠くて動かないものを目印にすることで精神が安定するそうです。

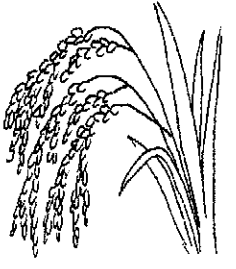
この話を聞いたときに、動くものを当てにすると迷う。では動かないものは・・・という、常照我・常に我を照らす阿弥陀如来に他なりません。

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

回心

「回心」をどう読むか。「かいしん」と読むとキリスト教の読み



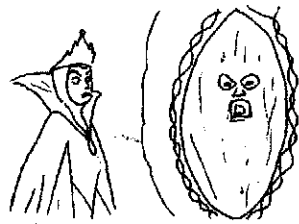
方で、「えしん」と読むと仏教の読み方になります。私はこれでいいのだろうか、こんなことをしていいのだろうかと自己を問う時、これが宗教心の目覚めと言えるでしょう。

仏教の回心には、いろいろな意味があるようです。
発心：仏教の真理に気づき、覚りを求める心をおこすこと
回心向大：自らの悟りのみを求めることから、他を利用する大乗に入ること

回心往生：自らの浅ましさを知り、阿弥陀如来の本願力を頼りとすること

すべて大事なことです。その中でも特に回心往生が浄土真宗では肝要です。

自分の姿は、自分で見えているようで意外と見えていません。我が身を見るには鏡が必要です。それも、おべんちゃらを言わない正直な鏡です。その鏡となるのが本當の宗教です。知れば知るほど頭を垂れる稲穂かな、ということ。



法座案内

十二日(月)

定例法座

十三時〜十五時

法話・住職「信心のさだまるとき

往生またさだまるとき」

親鸞聖人のお手紙の一節です。

今月の法話カレンダーより、住職がわかりやすく阿弥陀如来の話をします。

二十五日(日)

仏教入門法座

十三時〜十五時

担当・若住職

「歎異抄第2条を読もう」

「歎異抄」ほど一宗派の壁を超えて、多くの人たちに読み継がれている宗教書はありません。西田幾多郎、司馬遼太郎、遠藤周作等々……数多くの知識人や文学者たちが深い影響を受け、自らの思想の糧としてきました。また、信徒であるないに関わらず、膨大な数の市井の人々の人生の指針となってきました。その歎異抄を共に読み進めていきましょう！

各種ご案内

・お朝事

毎朝六時半〜七時、お勤めをしています。日々のお参り、命日などにお参り下さい。

・草取り

冬期休暇 三月から再開いたします

・写経会

池上さんが療養から復帰！再開です。
九日 一三時〜

・壮年会・婦人会主催の勉強会

三島さんが講師です。真宗の教えを知りたい方は是非！
壮年会 七日 一八時〜 三月は七日
婦人会 十二日 一〇時半〜

・門信徒会費 口座振込について

振込番号です ゆうちよ銀行
西光寺門信徒会 00180-0-713424

・心耕発送者募集！

心耕（月刊西光寺新聞）発送作業をお手伝

いいただける方を募集します。

形態…三カ月に一度 主に月初めの平日
時間…一〇時〜一二時 特製ランチ付♪

・メールマガジンのご案内

行事等をメールマガジンで配信。
は、左記のQRコードを用いるか、
saikohji@saikohji.netまで、
氏名を記入し送信してください。

・ポストイングお手伝い募集

度々開かれる、子供会・公開講座・落語会のチラシを近所へ配布しています。近所なら大丈夫という方、ご協力よろしくお願いたします。年数回です。

・西光寺ヨガ

先生の出産準備の為、休み。六月再開をめどにしています。また連絡いたします。

・花まつりの内容が決定！

先の話ですが、三月三十一日の花まつりのメイン企画が決まりました。木のスプーン作りです。日本で唯一の女性木彫りスプーン作家宮菌なつみさんをお迎えしての企画です。詳しい案内はまた今度。今からスケジュールを空けておいてください。